

# 学校だより

四日市市立八郷小学校発  
平成24年2月29日発行

《 No.31 》

## 【学校運営協議会、拡大委員による学校関係者評価の結果】

2月16日(木)、学校としての自己評価をもとに学校運営協議会委員の皆さんから今年度の評価をいただきました。また、23日(木)には、拡大委員の皆さんからもご意見をいただきました。その結果を次に記載しましたのでご覧いただければと思います。これらのご意見をもとに、次年度の改善方針も載せましたのであわせてご覧ください。

### ① 問題解決能力(確かな学力)の育成について

- ・ 学習意欲の向上を図るための授業改善や家庭との協働による家庭学習への取組などは的確な方法であると思う。
- ・ 家庭学習については、子どもたちに比べて保護者の目標設定が高いのではないかと。家庭学習で、子どもが楽しく、保護者が満足できる方策を考えるのは、学校でなく家庭である。保護者の学校への依存の姿勢が問題である。(全体的にこの傾向は見られる。)
- ・ 指導の工夫や家庭への啓発といった言葉でまとめられているが、次年度某かの具体的な方策を示し取組まれたい。

### ② 豊かな人間性の育成について

- ・ 「学校で友達を会うのが楽しい」と多くの子どもたちが回答していることが素晴らしい。先生方の努力の成果と思われる。
- ・ わすかではあるが「いじめはいけない」との意識をもっていない子どもがいることに問題がある。日々の実践の中で改善すべきである。「学校は楽しい」と答えられない子どもに目を向け取り組む必要がある。
- ・ 人を認めようとするのがあまりできない子が気になる。保護者も自分の子どもしか見ていない方がいる。親も子どもも誰かと比べて自分や人を評価するのではなく、自分のよいところ、友達のよいところを認められるようになるとよい。
- ・ 「将来の夢・目標」に関するアンケート項目で全国と比べ低い点が気になる。自尊感情をあわせて、今後の課題である。
- ・ 挨拶は家庭で教えるものであるが、挨拶ができない保護者もいることから、学校はそういったことをきちんと教えていただける場であることを期待する。

### ③ 健康な心と体の育成について

- ・ 季節に応じた昔遊びは、外遊びを進めるための一つの手段である。簡単な活弁に遊べるいろいろな昔の遊びを子どもたちに周知できるとよい。地域の人を巻き込んだ昔遊びクラブでもできるとよい。
- ・ 学校だけの指導には限界もあり、学校として、さらに子どもたちの家庭環境の把握と保護者との信頼関係の構築を図る必要がある。

### ④ 地域・家庭との協働の推進について

- ・ 学校の配慮と気配りにより関係する諸団体も心地よく協力することができている。
- ・ 授業時数の確保などの制約があり、地域との交流や体験などの取組は現状でよいと思う。
- ・ コミュニティスクールの取組については、保護者以外の地域の評価を得られる場があるとよい。

### ⑤ 教員が自己研鑽に励む学校づくりについて

- ・ 何事にも真摯に対応している。全体的に先生方がよく工夫・努力され、成果があがっていることはアンケートの結果を見ても明らかである。

- ・ 子どもを教えること以外の業務が多すぎないか。時間を費やさないといけない授業の準備は大丈夫なのか。PTA及び関係諸団体の活用を一層進め、時間を生み出されたい。また、知恵を出し、先生方がゆとりをつくる方向で業務の選択と集中を行い、取組まれたい。



裏面に続きます

- ・ 中学校へ行けば子どもの学習の結果は、いやでも位置付けが明らかにされる。小学校でどこまで示す必要があるのか検討されたい。「あゆみ」についても、「〇」の評価のあり方について検討されたい。

### 《改善方針》

○ 本年度は、これまでの教育活動や学校経営の強み・弱みを明らかにし、新しい学校づくりビジョンに中長期的に取り組むべき方向性を明確に示しました。初年度の実践として各学年・指導部で「具体的な取組の進め方」「子どもたちの姿の変容のイメージ」「取り組みの成果を確認するための指標の設定」について検討を進め、全校体制で取り組んできました。

CRT（観点別到達度検査）、児童・保護者アンケート、教職員自己評価などの結果を総合的に見ると、新しい学校づくりビジョンの方向性として概ねよい評価が得られているものと認識しています。次年度は、本年度の実践の結果から具体的な指標を設定し、継続的・より発展的な取組を進めていきたいと考えています。

○ 「学び合い」については、手だての工夫やスキル、指導のあり方の研修に止まらず、先進的な実践事例に学び、「学び合い」が豊かな言語力・表現力を向上させ、問題解決能力の向上に結びつける活動まで高められるよう研修を深めていきたいと考えています。

○ 「あゆみ」については、より分かりやすいものとなるよう検討を進めていますが、保護者アンケートでも改善の要望もあり、指導と評価の一体化の取組を進める中で、引き続き子どもの学習状況の伝え方について検討を進めていきます。

○ 本年度も「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学校・家庭協働部会でも「家庭学習」「お手伝いの見直し」「あいさつ」について協議を進めるなど、家庭学習を含めた生活リズムの質的な向上について取り組んできました。次年度は学級懇談会や家庭教育講演会についても同じテーマで行うなど、一年を通じて機会あるごとに啓発を進めていきたいと考えています。

○ コミュニティスクールの取組については定着してきていますが、運営協議会と拡大委員会の役割を明確にするなど、組織の改善に取り組むことで、長期的な視野に立った学校経営に対する助言・提言をいただきたいと考えています。また、学校と地域が連携した防災計画の策定や地域人材を活用した学習資料室の運営にも取り組むたいと考えています。

○ 次年度は学級数の減少のため職員数も減少します。より効率的・組織的に校務を遂行するため、教職員の業務（校務分掌）の見直しにも取り組むたいと思います。また、例年通り行われている学校行事や児童会活動、地域と連携した活動などの意義やねらいを問い直し、各学年の年間学習指導計画への位置付けを明らかにしたいと考えています。

### 《1年生の子どもたちの成長「来入児との交流会」》



2月23日（木）は、4月に八郷小学校に入学する子どもたちを集ってもらい、「1年生との交流会」を開きました。

1年生の子どもたちは、音楽の時間に学習した「校歌」や「輪唱曲・合奏」を披露しました。また、「ブンブンごま」の作り方や遊び方をグループに分かれて、ていねいに教えていました。

昨年は、1年生の子どもたちが教えてもらう立場、それが1年経つと教える立場にかわります。子どもたちの1年の成長に驚くばかりです。来入児童も、自分たちの1年後の成長を感じてもらえたのではないかと思います。「私たちも小学生になったら」と思ってもらえることが、幼稚園と小学校の教育の段差を低くしていく一つと考えています。

なお、先日行いました八郷中央幼稚園の給食体験、今回の交流会の様子を写真に撮り、八郷中央幼稚園に送りました。この4月から本校に入学する八郷中央幼稚園の保護者の皆さんにも、小学校の様子や子どもたちの成長の様子を感じていただくとともに、四日市市が進めている「保・幼・小・中連携」による「学びの一体化」の一つとして、連携の様子を知っていただく機会となればと思います。

新入生としてお世話されることが多かった1年生は、もう1ヶ月で、2年生に進級です。